

登録コード	L1820100	開講年度	2026				
担当教員	新津 健一郎			副担当			
授業科目	東洋史概論						
英文授業名	Asian History: Introduction						
授業タイトル	中国通史——モンゴル帝国以前						
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	木曜・3時限
講義室	人文第4講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前加わらぬ対象】変容する社会を冷静に分析し、時流に迎合することなく価値判断できる批判力				モンゴル帝国時代以前の中国社会の変容や各時期の特徴について、根拠に基づいて分析し、筋道立てて説明できるようになる。		
	【2022年度以前加わらぬ対象】過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力				モンゴル帝国時代以前の中国における主要な歴史事象について、その意義を根拠に基づいて考察することができるようになる。		
	【2022年度以前加わらぬ対象】異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力				モンゴル帝国時代以前の中国史を軸として、近隣諸地域を含むアジアの多元的歴史展開を整理して理解し、各時期・地域の特色及びそれら相互の関係を具体的に説明できるようになる。		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加わらぬ対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】				・モンゴル帝国時代以前の中国社会の変容や各時期の特徴について、根拠に基づいて分析し、筋道立てて説明できるようになる。 ・モンゴル帝国時代以前の中国における主要な歴史事象について、根拠に基づいて事実関係を理解し、その意義を考察することができるようになる。 ・モンゴル帝国時代以前の中国史を軸として、近隣諸地域を含むアジアの多元的歴史展開を整理して理解し、各時期・地域の特色及びそれら相互の関係を具体的に説明できるようになる。		
授業で学べる「テーマ」	芸術文化、環境共生、多文化協働						
全学横断特別教育プログラム	ローカル・イノベーター養成コース						
授業の概要	ユーラシア大陸の東部に位置する中国には、新石器時代以来特色ある歴史が展開し、そこで生み出された制度や文化は日本列島・朝鮮半島・東南アジア地域など近隣諸地域に対して大きな影響を及ぼしてきました。このことは、日本の歴史展開や文化の基礎を理解するうえでも重要な意味を持ちます。同時に、中国の政治・社会・文化もまた、北方遊牧世界や内陸アジア地域、東南アジア／海域世界などと関わり合いながら変容・展開をみせました。中国に焦点を当てて主要な歴史事象を理解していくことは、アジア（東洋）諸地域の特徴やそれらの歴史の大枠を把握する手掛かりとなります。 そこで本講義では、モンゴル帝国の成立以前（13世紀以前／古代・中世）を対象として中国の通史を学びます。基本的には毎回テーマを設け、順を追って中国史の概括的問題を取り上げていく形をとりますが、テーマによっては日本を含む（東）アジア地域やユーラシア大陸を見渡すことで、地域間の交流や文化の伝播・接触も含めて歴史・地理・文化の大枠を理解することを目指します。同時に、事例を取り上げる中で、歴史学上の分析概念や論点、基本的な発想や思考法を理解することにも取り組みます。これにより、歴史学——とくに東洋史学（そして古代・中世史）という領域での基本的学力を養います。						
授業計画	01) ガイダンス 02) 中国の歴史はいつはじまるか？〔先史地域文化と初期国家の形成〕 03) 「夏王朝」は実在したといえるか？〔夏・殷・周／文献史料と物証（甲骨・金文）〕 04) 出土文字資料は歴史を書き換えるか？〔東周・春秋戦国時代／簡牘・帛書〕 05) 皇帝と王は違うのか？〔秦漢帝国の形成／皇帝制度・古典的国家制度〕 06) 帝国はなぜ滅びたのか（1）？〔漢帝国の変容／王莽の篡奪／帝国の解体〕 07) 天命を継承するのは誰か〔漢滅亡後の歴史展開と諸民族〕 08) 夷狄は中華になれるのか？〔隋唐帝国の成立と東部ユーラシア世界〕 09) 「日本」はどのようにして生まれたか？〔東アジア世界の形成〕 10) 女性は皇帝になれるのか？〔唐代初期の権力構造とジェンダー〕 11) 貴族とは何か？〔唐代の政治と社会〕 12) 帝国はなぜ滅びたのか（2）？〔安史の乱・黄巢の乱と唐帝国〕 13) 歴史に「法則」はあるのか？〔唐宋変革と五代十国〕 14) 「中国」はどこからどこまでか？〔宋と遼・金〕 15) モンゴル帝国はなぜ成立したのか？〔「中央ユーラシア型国家」の展開／あわせて授業アンケートを実施〕 定期試験は行いません。 ・ガイダンスを除き、概ね時系列で中国史の大枠（すなわち主要な歴史事象）に関する講義を行います。いずれも対面で実施します。ただし、台風や降雪による交通の混乱、感染症の蔓延などが懸念される場合には、緊急避難的にオンデマンド／オンライン形式に切り替える可能性があります。 ・講義形式の授業ですが、内容理解の深化を図るため、授業中に簡単なペアワーク等を行う可能性もあります。						
成績評価の方法	・小テスト【70％】……授業3～4回に1回のペースで、授業内容の理解度を確認するための小テストを行						

成績評価の方法	います（eALPSを使用し、原則として授業時間外に実施。資料参照可）。得点の積み重ねを素点70点分に換算します。なお、この小テストは下記「事後学習」の範囲内で準備する（特別な試験対策は要求しない）ものとし、実施期日は授業の進行に応じて設定します。 ・記述課題【30%】……学期を通じて3回程度、授業内容の理解度を確認するための文章記述課題を設定します。eALPSを用いて提出するものとします。また、生成AIの不適正使用を防ぐため、いくつかの条件を設ける予定です。詳細は、実施時の生成AIの精度及び普及状況を考慮して、授業内で指示します。提出の有無及び内容（下記「成績評価の基準」による）を点数化し、素点30点分に換算します。 以上に基づき、素点100点満点で評価をおこないます。
成績評価の基準	・授業で扱われた諸事象を正確に理解したうえで、複数の事象の因果関係や影響を組み合わせ、構造的に分析することができていれば、「卓越している」といえる。 ・授業で扱われた諸事象を正確に理解したうえで、それら個々の因果関係や影響について、妥当な分析ができていれば、「かなり上にある」といえる。 ・授業で扱われた諸事象を正確に理解できていれば、「やや上にある」といえる。 ・授業で扱われた諸事象をおおむね正確に理解できていれば、「合格水準にある」といえる。
事前事後学習の内容	【事前】シラバス・eALPS及び参考文献をよく読み、次の授業で扱われる内容について、（1）シラバスまたは授業資料に示す参考書、（2）高等学校で使った世界史教材、（3）高校世界史の学び直しに資するコンテンツ（NHK高校講座など。授業内でも説明予定）のいずれかを利用し、時代の特徴や主要な人名・地名・位置関係・概念を把握しておくこと。なお、回によっては、具体的な課題を提示することもあります。 【事後】自身の理解度や学習習慣に応じて、以下の各項目、理解を深めること。（1）配布された資料を読み直すこと（例えば、メモ書き・箇条書きになっている事項や、授業中に口頭で説明された事項のメモを文章化してみるなど）。（2）配布された史料・読み物、シラバスや授業内で紹介された参考文献に目を通すこと。（3）授業内容を踏まえて、高校世界史教材／学習コンテンツ等を改めて見直すこと。なお、回によっては、具体的な課題を提示することもあります。このほか、図書館に足を運んで参考文献を手に取り、目を通すこと。小テスト／課題が指示されている場合は、十分準備の上、それらに取り組むこと。 不明点は随時質問してください。疑問や興味を感じた事柄については、シラバスに掲載されている参考文献リストと図書館を活用して積極的に知識を広げてください。手間を惜しまず、図書館に足を運ぶことも重要な学習活動です。
履修上の注意	・大学入学までの歴史系科目（または関連教科・科目）の学習経験は問いません。履修者の確定後、受講者の前提知識などを確認し、説明の方法等に反映する予定です。大学入学以前の得意不得意にかかわらず、積極的な受講・学修を期待します。また歴史学コース以外の方、一年生の方についても、参加をおおいに歓迎します。 ・高等学校用世界史教材（とくに用語集・図表集など）は本講義の内容を深く理解し、授業の達成目標にスムーズにたどり着くために有益です。各自の学習経験と習熟度に応じて、積極的に活用してください。教室に持参しても構いません。 ・出席については、「信州大学における授業の出席に関する要項」に沿って取り扱います。すべての回に出席することが基本です。「要項」に定める事由については学修の補充措置を取りますが、授業中の活動などは、その性質上、完全に補えないこともあります。補充の申し出及び打刻に関するトラブル（読み込みができない、等）への対応はガイダンスで説明しますので、指示に従ってください。 ・連絡事項の聞き落とし、eALPSの操作ミス、指示の見落としや誤認は（成績評価が下がるなど）自身の不利益につながる場合があります。十分注意してください。事務連絡や課題のリマインド、前記事情によりオンデマンド／オンライン形式に切り替える場合などにはeALPSおよび大学メールアドレス（学籍番号@shinshu-u.ac.jp）を使用します。週に一回以上を目安として定期的に確認してください。
質問、相談への対応	・授業内容に関する質問及び相談は、原則として授業の前後に受け付けることとしますが、記述課題の中に質問を含めても構いません。なお、受講者全体にとって有益な意見や質問は、提出者名を伏せたうえで授業中に紹介する可能性があります。 ・電子メール（eALPS及び履修案内で確認できます）での質問や相談にも対応しますが、返信には時間を要する場合があるので、余裕をもって問い合わせてください。 ・電子メールでの問い合わせについては、不審なメールや迷惑メールに紛れることを防止するため、件名・宛名や差出人を明記するなど、書式に注意してください。 ・込み入った内容の相談などで面談を希望する場合は、まず電子メールで問い合わせてください。時間を設定し、対面／zoomなどで対応します。
教科書	指定なし。毎回資料を配布します。また、下記の参考書および授業内で紹介する文献を活用してください。
参考書	【授業全般にわたる参考書】 ・岸本美緒『中国の歴史』筑摩書房、2015. ・鶴間和幸ほか編『悪の歴史 東アジア編』清水書院、2017. ・岡美穂子責任編集『つなぐ世界史1』清水書院、2023. ・中西竜也、増田知之編『よくわかる中国史』ミネルヴァ書房、2023. ・渡辺信一郎『さまざまな歴史世界』かもがわ出版、2023. ・山崎寛士『成句・故事成語ではじめる中国史』法律文化社、2024. ・松下憲一『中華とは何か』ちくま新書、2025. （シリーズ） ・尾形勇ほか編『世界歴史大系 中国 1・2・3』山川出版社. ・尾形勇、岸本美緒編『中国史 上・下』山川出版社、2019. ・宮本一夫ほか『中国の歴史 01～08』講談社学術文庫、2020-21. ・渡辺信一郎ほか『シリーズ中国の歴史 1～3』岩波新書、2019-2020.

参考書	・ 青山亨ほか編『アジア人物史1～5』集英社，2023. 【各回の内容にかかわるもの】 ・ 岡村秀典『夏王朝：中国文明の原像』講談社学術文庫，2007. ・ 宮宅潔『中国古代刑制史の研究』京都大学学術出版会，2011. ・ 土口史記『先秦時代の領域支配』京都大学学術出版会，2011. ・ 杉山正明『遊牧民から見た世界史』増補版，日本経済新聞出版社，2011. ・ 藤野月子『王昭君から文成公主へ』九州大学出版会，2012. ・ 中國出土資料學會『地下からの贈り物』東方書店，2014. ・ 落合淳思『殷』中公新書，2015. ・ 戸川貴行『東晋南朝における伝統の創造』汲古書院，2015. ・ 沢田勲『匈奴：古代遊牧国家の興亡』新訂版，東方書店，2015. ・ 佐藤信弥『周』中公新書，2016. ・ 楯身智志『前漢国家構造の研究』早稲田大学出版部，2016. ・ 氣賀澤保規『則天武后』講談社学術文庫，2016. ・ 田中一輝『西晋時代の都城と政治』朋友書店，2017. ・ 礪波護『鏡鑑としての中国の歴史』法藏館，2017. ・ 田余慶（田中一輝、王コウ訳）『北魏道武帝の憂鬱』京都大学学術出版会，2018. ・ 池田恭哉『南北朝時代の士大夫と社会』研文出版，2018. ・ 河内春人『倭の五王』中公新書，2018. ・ 李熙濤（諫早直人訳）『新羅考古学研究』雄山閣，2019. ・ 石曉軍『隋唐外務官僚の研究』東方書店，2019. ・ 落合淳思『漢字の構造』中公選書，2020. ・ 吉川忠夫『六朝隋唐文史哲論集（1・2）』法藏館，2020. ・ 渡邊義浩『中国における正史の形成と儒教』早稲田大学出版部，2021. ・ 佐藤信弥『戦争の中国古代史』講談社，2021. ・ 飯島武次『中国殷王朝考古学研究』同成社，2021. ・ 李憑（劉可維ほか訳）『北魏平城時代』京都大学学術出版会，2021. ・ 池田恭哉ほか訳『北齊書 中国史書入門』勉誠出版，2021. ・ 会田大輔『南北朝時代』中公新書，2021. ・ 千田豊『唐代の皇太子制度』京都大学学術出版会，2021. ・ 鈴木靖民監修『古代日本対外交流史事典』八木書店，2021. ・ 村元健一『日本古代宮都と中国都城』同成社，2022. ・ 辻正博編『中国前近代の関津と交通路』京都大学学術出版会，2022. ・ 岡田和一郎，永田拓治編『漢とは何か』東方書店，2022年. ・ 中村慎一編『中国新石器時代文明の探求』六一書房，2023. ・ 佐藤信『古代史講義 海外交流篇』ちくま新書，2023. ・ 平田陽一郎『隋』中公新書，2023. ・ 森部豊『唐』中公新書，2023. ・ 諫早直人，向井佑介編『馬・車馬・騎馬の考古学』臨川書店，2023. ・ 阿部幸信『印綬が創った天下秩序』山川出版社，2024. ・ 網伸也編『東アジア都城と宗教空間』京都大学学術出版会，2024. ・ 羅新（田中一輝訳）『果てしない余生：ある北魏宮女とその時代』人文書院，2024. ・ 古松崇志『ユーラシア東方の多極共存時代』名古屋大学出版会，2024. ・ 白石典之『元朝秘史』中公新書，2024. ・ 渋谷綾子，石田智子編『中国文明の起源と伝播』吉川弘文館，2025. ・ 辻田淳一郎編『倭の五王の時代を考える』吉川弘文館，2025. ・ 王寧遠（陳文君訳）『良渚文化とは何か』雄山閣，2025. ・ 海野典子『イスラームが動かした中国史』中公新書，2025. ・ 上田信『東ユーラシア全史』中公新書，2025. ・ 伊原弘『宋代士大夫官僚の基層社会と構造』勉誠社，2025. ・ 井内真帆『ポスト帝国期のチベット世界』臨川書店，2025. ・ 岩尾一史『古代チベット帝国の国家と軍制』臨川書店，2025. ・ 高田貫太『渡来人とは誰か』ちくま新書，2025. ・ 武田幸男『朝鮮の国家形成と東アジア』勉誠社，2025. ・ 岡本隆司『二十四史』中公新書，2025. ・ 西秋良宏，野林厚志編『パレオアジア新人文化の形成』新泉社，2025. ・ 斎藤賢『史記』はいかにして編まれたか』京都大学学術出版会，2025. ・ 菊地大樹，丸山真史編『古代アジアの東西交流』新装版，雄山閣，2025. ・ 鎌田茂雄『新 中国仏教史』新装版，大東出版社，2025. ・ 橋本秀美『孝経』岩波新書，2025. このほか、授業内でも順次紹介の予定。
-----	---